

成田空港、年度内に「グランドデザイン」

■機能強化に伴う施設・機能・配置など具体化

成田国際空港会社（NAA）は2026年度中に、滑走路延伸・新設による発着容量拡大、それに伴う施設再編、各種機能・施設の具体的配置など、「空港のあるべき姿」を盛り込んだ「グランドデザイン」を策定する。すでに新貨物地区に関しては27年夏にマスタープラン策定に向けた検討が行われている。新旅客ターミナルは、今回、策定するグランドデザインを踏まえながら詳細な計画を検討することになるもようだ。7月に策定された、国土交通省の有識者会議「今後の成田空港施設の機能強化に関する検討会」の最終とりまとめでは、新貨物施設は30年代初頭、旅客施設は30年代の供用開始を目指すという方向性が示されている。

成田国際空港は滑走路延伸・新設で年間発着容量（現在34万回）が50万回に拡大する。それに伴って貨物施設や旅客施設を再編する。新貨物地区の整備計画については、NAAが公募によって26年4月に設計共同体を選定した。1月に発足した成田空港新貨物地区検討協議会の議論・検討、国交省有識者会議の最終とりまとめなども踏まえて、27年夏に新貨物地区のマスタープランが策定される。30年代初頭に供用を開始し、新貨物地区に現行機能を集約する。新貨物地区は需要に応じて順次拡張する計画で、既存施設から新貨物地区への移行も段階的に行われることになりそうだ。

9月30日には「国家プロジェクトとしての成田空港及び周辺産業基盤の整備推進に向けた関係府省庁連絡会

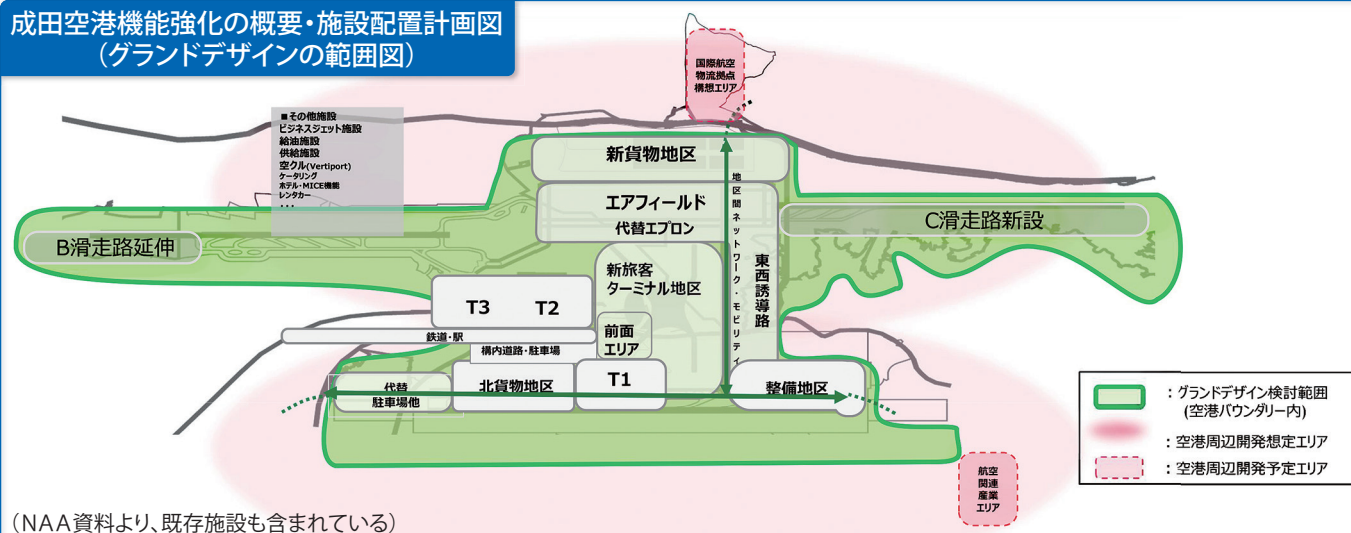
議幹事会」の第1回会議が開催され、成田空港の現状や今後の計画、方向性などが議事となった。NAAは空港全体の諸施設のあり方に関する具体的な計画を検討する方針を説明した。国交省の有識者会議の最終とりまとめやこれまでの検討状況などを踏まえて、空港としてのあるべき姿を「グランドデザイン」として策定するものだ。空港内各エリアのゾーニングや施設計画を深度化するとともに、施設間の接続などの計画を具体化する。NAAは「これらを実現するための各種前捌きの検討を同時並行的に行い、マクロ・ミクロ双方の視点から検討の粒度を深めていく」としている。

グランドデザインは原則として空港敷地内を検討対象とする。一方で、空港の施設配置や機能を検討するに際

しては、空港アクセス、エアポートシティ、周辺地域のまちづくりや交通基盤整備などとの関係を切り離して考えることはできないため、空港外との接続・連携・相乗効果を前提として検討する。

国交省は関係事業者と連携して、旅客施設や貨物施設に関する検討の進捗を随時確認する。併せて国交省は「引き続きNAAにおいて、航空事業者などの関係者と連携しながら旅客取扱施設などにかかわるグランドデザインや、（貨物施設と合わせた）両施設に関わるマスタープランの策定を進めるなど、整備に向けた取り組みをスピード感をもって進める」「新たな施設整備には多額の投資が必要になるため、国際観光旅客税の活用を含め、財源確保に向けた検討を行う」としている。

成田空港機能強化の概要・施設配置計画図
（グランドデザインの範囲図）



（NAA資料より、既存施設も含まれている）